

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

【課題】

連携支援コーディネーターが、関係機関との連携を積極的に行い、必要な情報を共有するよう取組を進めてきた。しかし、市内でも学校によって連携が取れているところと、とれていないところの差があり、有機的なネットワークの形成に一層取り組む必要があった。

【課題を踏まえて設定した目的】

特別な支援を必要とする子どもについて、就学前から卒業後にわたる切れ目ない支援体制の整備を促すため、教育・福祉・保健・医療・労働等が連携し一貫した支援体制を構築する。



成果

- ・連携支援コーディネーターや指導主事の自立支援協議会への定期的な参加により、保護者や療育施設、児童発達支援センター等の思いや願いを共有し、教育と福祉の連携の充実を図ることができた。
- ・各学校に「個別の教育支援計画」の作成、活用について周知するとともに、社会福祉課や障害者サポートセンターにも「個別の教育支援計画」を用いた連携の仕方について情報提供し、放課後デイサービス等との連携が円滑に行われるように継続して取り組むことができた。
- ・今後も、連携支援コーディネーターによる実態把握、関係機関との連絡調整を継続的に行い、適切な支援につなげる。

事業内容

①支援体制

- ・連携支援コーディネーターを配置し、実態把握、関係機関との連絡調整を行い、適切な支援につなげる。
- ・教育支援委員会に向けた繁忙期には、6ヵ月間、1名追加でコーディネーターを雇用し、2名体制で適切な就学に向けた取組を進める。

②「個別の教育支援計画」の活用内容

- ・市主催の研修会や学校訪問等の機会を利用し、「個別の教育支援計画」の作成、活用について周知する。
- ・社会福祉課や障害者サポートセンターにも「個別の教育支援計画」を用いた連携の仕方について情報提供し、放課後デイサービス等との連携が円滑に行われるように継続して取り組む。

③連携支援コーディネーター活動内容

- ・連携支援コーディネーターによる実態把握、指導・助言、関係機関との連携を行う。
- ・連携支援コーディネーターによる指導・講話等を行い、個別の支援、就学、連携の必要性などについての理解を促進し、連携の充実を図る。

④普及啓発内容

- ・「個別の教育支援計画」の連携の仕方について、自立支援協議会等への参加で他課や関係機関と情報共有を行う。